
甘えるおんな

空々

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

甘えるおんな

【Nコード】

N0838Z

【作者名】

空々

【あらすじ】

甘えるおんなと甘やかす男のお話。

深く考えずに書いているので、拙いですし、遅いです。
失礼するとおもいます。

1

「噛みたいなあ。」

男に向かって女はつぶやいた。

「あ？」

小汚い髭の生えた横顔に向かって呟いたら、何を言ってるんだ、という顔をされた。

いや、呆れられたのか。

ごつい顔をしている割にはきれいな形をしている耳が無防備に私にさらされている。

「耳を噛みたいの。」

骨ばってごつごつした手。煙草を人差し指と中指ではさんで、ブハアーとため息をついた。

「やっぱり指にする。」

あ、顔だけこっち向いた。

あれ、眉間にシワ。

3本あるよ、一応まだ若いのに。大きな鉤鼻の上に、深いシワ3本。

「…鼻にしようかな」

シワとれなくなっちゃうな。
ただでさえ顔怖いのにな。

「・・・普通にかまって欲しいって言えよ、たまには。」

読んでいた書類を放り投げて、こっちに伸びてくる毛むくじらの腕。

「読書の邪魔したら悪いかなっておもったから。」

「噛まれるほうが邪魔だ。あと読書じゃねえ。仕事の書類読んでんだ。」

大きな手は私の頭をわしっと掴んで、そのまま動かなくなった。

頭を撫でてくれると思ったのに、違うのか。

「頭撫でてくれないと噛みつくぞ。」

あ、口からたくさん煙が出てきた。煙い。右手は煙草の火を消して、さっきみたいに私に向かって伸びてくる。

今度は撫でてくれるのかな。

「あーっ。」

汚いベッドに押し倒された。

「何でえ。」

「お前は俺にかまって欲しい。だが俺は疲れている。なら一緒に昼寝をするしかないだろう。」

「…何でさ。意味分かんない。」

男のごつごつした腕枕はちつとも気持ちよくないのだ。
ヘビースモーカーな彼からは快眠を誘うようないい香りなどしたためしもない。いつだって煙草臭く、男くさい。

「こんな煙草臭くてごつい毛むくじゃらのおっさんの横で、眠れるわけじゃないじゃない。」

「そのくせえおっさんに噛みつきようとしてたのはどいつだよ…。」

「それは別にいいのよ。」

…：だいたい、今転がっているベッドだって、ベッドとよぶのが申し訳ないくらいお粗末なしろものだ。

生粋のお嬢様な私は普段、これよりずっと上等な、ふかふかの、いい香りのするベッドを使っているのに。

「いいから、寝ておけ。」

そう言ったと思えばすぐにいびきが聞こえた。

どうせ自分が眠たかっただけだ。この毛むくじゃらと違って普段規則正しく生きている私が、こんな真昼間から眠れる訳がないじゃないか…。

ぐずぐずしていないでさっさと噛みついてやるんだった。

「臭い。固い。うるさい。」

ああ。

なのにどうして、この男の腕のなかは、涙がでるくらい安心できるのだろう。

久しぶりの睡魔におそわれ思考が沈んでいくなか思った。

きっと私は、この男の腕の中でしか眠れなくなってしまったのだ。

「起きたら耳、噛ませてね。」

だから、責任を取ってもらわないといけない。

「……アリス。」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0838z/>

甘えるおんな

2011年12月3日02時50分発行